



JEG ニュースレター 166号

www.jegschweiz.com

2018年6月16日発行

小さな証

突然の大腸ガン宣告、完治ほぼ不能と言われるステージ4から回復された筆者の証です。 P 2



スイスJEG修養会

5年ぶりにスイス国内で開催されたスイスJEG修養会には内外から関心と期待が寄せられました。

P 3+7



SLIM 18

主と教会に仕える者のカンファレンスSLIMが、今年もSchwyzで開催されました。P4-6



GRC

外国で救われて本帰国した日本人が、日本の教会に繋がることの難しさに向き合うGRCのレポート。 P5



小さな祈り

天の主なる父よ、
あなたの豊かな恵みによって
私たちはあなたの家に行き、
あなたを畏れつつ、
あなたの聖なる宮に向かって
ひれ伏します。

信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。
ヘブル人への手紙11:1

”溢れる信仰”をテーマに、3人の講師による4つのメッセージ、スモールグループ、アルプスへのハイキング、貴重な交わり、と、主の恵みと祝福が溢れるほど注がれたスイスJEG修養会となりました。



大自然をバックにSGでの祈り

(写真はハイキングで登ったHochalp(1529m)からの眺望)

ちいさな証

大病に罹って得たこと

クライナー佐々木千恵子

シュトゥットガルト日本語キリスト教会



私の大病をとおしての小さなお証しをさせていただき恵みを感じたいとお願いしました。私のお祈りを主がきいてくださったことをお証しさせていただきたいとおもいます！

今回、スイス日本語福音キリスト教会、ヨーロッパの日本語教会／集会そして日本の全く知らない方々まで、私の病気のことでお祈りいただきました。

おかげ様で、主はお祈りを聞いてくださり、このように元気にさせていただきました。主を賛美いたします！ハレルヤ！長い間、続けてお祈りして下さった沢山の方々に、この場をおかりして、心より感謝いたします！ありがとうございました！私たちが、どんなに助けられ、支えられ、癒されたか、そして感謝しているか、筆舌に尽くすことはできません！

昨年4月の終わりに突然、お腹がおかしくなり、一週間くらい主治医を何回も訪れました。すぐ治るだろうと思っていたのですが、どうにもこうにも耐えられなくなりました。家庭医では原因が判明せず、病院に行きCT検査をした結果、大腸に大きな腫瘍が見つかり、即入院し翌日に緊急手術となりました。検査結果は大腸ガnstage 4で、大腸を60センチ切り取りました。大腸ガンはリンパ腺まで侵食していたので、患部摘出後、人工肛門を造設しました。この大手術後、化学療法が半年続き、人工肛門を戻す手術、リハビリ施設に入所と、ほぼ1年間の闘病生活でした。

入院した日、お祈りの要請のため、私自身は誰にもメールや電話をできる状態になく、日本語のできない主人アツツカに教会にお知らせしてとかわらうじて頼みました。手術のあと、病院の無味乾燥な病室で沢山のチューブにつながれ、全く動きがとれない中で、夜も目は冴えているのですが、不思議なくらい心が平安なのです。それは、多くの兄弟姉妹のお祈りに包み守られ、偉大な存在に、守られ支えられていたからに違いありません。

ん。不思議なほどに、不安と心配の渦にまかれることがなくおれたのは、神さまがついていて下さる！イエス様も共に苦しみを背負ってくださるといふ確信の故だと思います。

又、神さまの摂理のなかで最善に導かれたと思ったのは、あまりにもガン宣告が緊急だったので、病院や医師選択の余裕もなく、不可避的に、その病院で緊急手術を受けたことです。医師の手術技術も優れていて、病院もものすごく行き届いて、重病患者の私を丁寧に扱っていただきました。ただただ主に感謝いたしました。医師や病院の選択の余地もなく、神様の大きな流れの中に乗せられて動いているようなイメージでした。半年間の化学療法も、ほとんど副作用のない生活が送れたのも、兄弟姉妹の真摯なお祈りに主が応えてくださったのだと信じています。お祈りありがとうございます！



闘病生活は、ほぼ家と病院だけのたんとした生活なのですが、毎日、家の中で祈り、聖書を読み、沢山のお祈りや暖かな言葉に助けられ、平安に過ごさせて頂くことができました！主は素晴らしいお方で、感謝に満ちた時間を過ごさせていただきました。これまでの私であったら、おそらく不安と恐れが頭の中を駆け巡り、救いようもなく落ち込んでいたろうと思います。ところが、落ち込まないどころか、心の中は平安なのです。

イエス様は真実で完璧なお方であります。十字架の上で、私の罪咎も病も負ってくださったことを信じ感謝いたします！必ず癒しの業をなして下さるとの確信も祈りの中で与えられ、毎日祈っていました。それに、どれほど沢山の兄弟姉妹のとりなしの祈りに支えられてきたことでしょうか！この大腸ガンという大病に罹ったことで、父なる神*主にある家族*主にある兄弟姉妹に愛を注がれ、言葉では表現できない親しみと暖かさ、平安を体験させていただきました。深く感謝します！

この得難い試練をお与えくださり、試練を乗り越える力をお与えくださった神さま、そのすべてのご栄光を主にお返しいたします！アーメン

主を崇めます！ハレルヤ！



1、イエス様の願い 4月22日の日曜礼拝では、矢部晶宏（あきひろ）宣教師（宇都宮峰町キリスト教会）が、イエス様の願いをテーマにヨハネ17：20-35から、優しくも力強くみ言葉を取り次いでくださいました。矢部宣教師はポーランド・アウシュビッツで”生者の行進”に参加されたあと聖地旅行をされ、スイスJEGにおける今回の説教奉仕のため、イスラエルからスイスに飛んでこられました。矢部宣教師は、2019年1月より、OM宣教師として家族とともにオーストリアに移住し、OMの難民救援教育プロジェクトに家族で参画の予定で、現在、栃木県宇都宮市峰町キリスト教会にて派遣宣教師としての訓練を受けています。



”イエス様の願い”は、スイスJEGのHPの礼拝メッセージサイトで視聴いただけます。（日本語のみ）

2、スイスJEG修養会 5月25日から27日まで、スイスJEGの修養会が、“溢れる信仰”をテーマに東スイス／トーゲンブルグにあるヘルムベルグ村でスイス内外から50名の参加者を迎えて開かれました。5年ぶりに（今回は、2013年のティン州マジョーレ湖畔モシヤにおけるミラノ賛美教会との合同修養会）スイスで開かれる修養会とあって期待も大きく、スイスJEG以外の教会／集会、フランクフルト、チェコ、南ドイツ、イスラエル、日本から参加者があり、まことに主の恵みと祝福に溢れる修養会となりました。

また、メッセージからも多くのチャレンジを受け、神の家族としてのスイスJEGが隣人愛を实践し、さらに福音を広めていくため前進していく促しと勇気も与えられました。

3人の講師（矢吹博牧師、浅野康牧師、マイヤー・マルチン牧師）の心に深く迫るメッセージは、スイスJEGのHPでも視聴していただけます。[スイスJEGのメッセージ - スイス日本語福音キリスト教会のホームページによろこ](#)！このニュースレターの8ページには、スイス外からの参加者のフィードバックが掲載されていますので併せてお読みください。

スイスJEG修養会を記録したショートビデオ（限定公開）7分は、<https://www.youtube.com/watch?v=ivyvZGOU5O8>でご覧いただけます。

3、マイヤー牧師の働き 現在、マイヤー牧師はスイスJEGのほか、南ドイツ福音ネットワークにおいても、福音のため身を挺してお働きです。各地の集会が祝福され、長距離運転の安全が守られ、



愛餐会のスナップから

以下の集会から一人でも多くの同胞が救いに与れますようお祈りに覚えてくだされば幸いです。

- ・バーゼル市の聖書の学び会（月一回）において、受洗希望者一人、求道者二人（いずれも音大生）が与えられています。受洗の学びは、受洗希望者の都合によって、面会様式あるいはSkypeで行われます。

- ・仏ストラスブールの”聖書のお話を聴く会”（月一回）において、音大生の受洗希望者が一人与えられています。受洗準備の学びは、バーゼルに準じて行われます。

- ・スイス日本語福音キリスト教会において、教会の若者二人（小学生一人と中学生一人）が洗礼準備ならびに堅信礼のための学びをしています。

4、SLIM 4月26日（木）から29日（日）まで、シンガポールJCF・松本章広牧師をメッセンジャーに、55名の参加者を欧州各地から迎え、南独リーベンツェル・モンバッハタールで開催された第6回SLIM((Servant Leaders In Ministry) Conferenceは、祝福のうちに終了しました。

スイスJEGからは10名の兄弟姉妹が参加し、“神のご計画に従って召された私たち”をテーマとしたカンファレンスの様々な場所で奉仕にあたりました。SLIM参加者の証／感想文を今回のニュースレターでは特集し、4-6ページに掲載しましたのでお読みください。

5、欧州日本人宣教祈禱会



1995年にヨーロッパにおける日本語宣教を支えることを目的にして誕生し、定期的に重荷を負う信徒と教職者が集まっている欧州日本人宣教祈禱会が、6月2日（土）高橋稔先生

が牧会されておられる福音キリスト教会西荻チャペルで午前10時から行われました。各日本語教会／集会から出された祈禱課題をもとに、真剣な祈りが捧げられました。感謝！欧州日本人宣教祈禱会のホームページwww.joutreach.org/

6、津田和明兄が卒業試験に合格

6月3日（日）のBasel音楽院の卒業試験をかねたコンサートで、16時半から出演された津田和明兄（コントラバス）は、その演奏に高い評価を得て、無事合格されました！

津田兄は、音楽院を7月卒業後に本帰国をされ、神学の学びをされる予定です。



7、世界各地から月報／ニュースレター&メルマガが届いています。オーニング宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ローゼンクランツ宣教師、フーサー香織・シモン宣教師からのNL/Rundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、吉村美穂メルマガ、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会パルタージュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林へ。

SLIM18に参加して 1

ヨーロッパの日本語教会／集会から

ミルクを終えてみて

増谷啓

SLIM18実行委員長



SLIM18全体に関しては他の方々が素晴らしい証しを寄せてくださっているので、ここではSLIM18で用いたバイブル

スタディ・テキスト「ミルク」との個人的な関わりを証しさせていただきたいと思います。

それはSLIMの世話人で集まった合宿から始まりました。そこで、「使徒信条に沿って聖書を体系的に学ぶテキスト」を作ろうというビジョンが与えられました。同時に、著者の毛利陽子さんをリーダーとして、世話人主体のスマールグループを作り、実際に体験することで「リードの仕方」も学ぶことになりました。

「組織神学入門」のようなものかと思っていました、それ以上のものでした。

「知識や解釈」を学ぶのではなく「聖書は何を言っているか」「み言葉がどのように



有機的に繋がっているか」を自分で発見するという壮大な旅でした。毛利さんから「リードの仕方」を学ぶはずが、メモをするのも忘れ、説き明かしに聞き入っている自分がいました。

そしてそこで学んだことを持ち帰りSLIM16で手を挙げられた4名との学びをリードさせていただきました。ほぼ毎月続けることができ、SLIM18直前に全てを終えることができました。もちろん熟練したマイスターまではまだまだです

が、一つのマイルストーンに達したことは大きな喜びでした。

さて、このように構想の段階から関わらせていただきましたが、一つだけ悔やまれることがあります、、、それは、もっと早く出会っていなかったことです。海外の日本語教会には様々な信仰の背景を持った方が集まります。ですので「お互いではなく同じ方向を見る」という信仰の一致が重要になってきます。神様のビジョンと約束と計画、そしてそれに対抗する霊的な戦い、、、これらが教会の中で共有されていけば、どれだけたくさんさんの痛みと悲しみを避けることのできたかと思うと残念でなりません。しかしそれ以上に、SLIM18のタイミングで、風を起こされようとしている神様に多に期待しています。神様の計画に従って召されたお一人お一人のミルク(1ペテロ1:2)として用いられることをお祈りいたします。



来年のSLIM19ではイスラエルでお会いできることを楽しみにしています。

「天的」視点を持つ

深井愛記音

スイス日本語福音キリスト教会



Schwarzwaldに囲まれた美しい自然の中で、たくさんの方々と共に学び、また祈りあった4日間の中で多くの気づきがありました。

今回の「神のご計画に従って召された私たち」というテーマに沿ってお二人の先生からメッセージが語られました。

松本先生が語られた、創世記のヨセフ物語による解き明かしの中で、「「天的」視点を持つ」というキーワードがありました。

ヨセフは様々な困難や試練に遭遇しますが、どんな時でも「主は共におられた」創世記39:23とあります。より良い状況の時は、「主は共におられました！」と喜びと感謝を持って言うことができるのに、何かしらの困難にぶつかった時、私の心は不安や思い煩いで一杯になってしまいます。頭では神様は共に居て下さり、全てを益として下さることを知っていても、心の奥底のどこかで完全には委ねられていないのです。

「私たちは天的な視点が持てているだろうか？」この問いかけに、はっとせざるを得ませんでした。問題のただ中に居る時の弱々しく、不信仰な自分の姿をここに来てははっきりと見せつけられたような気がしました。神様は摂理の御手の中で私という、どうしようもない迷い羊を召して下さいました。

このSLIMで様々な人と語り合い、分かち合う中で、祈られるということがこんなにも温かく、

勇気づけられるのだということにも気づかされました。私が歩んできた道のりの中でどれだけの人に支えられ祈られてきたか、全てがひとつの道となって繋がったような目が覚めるような思いでした。神様のご計画の中で、これからも様々なことがあるでしょう。つい思い煩い、不安が先立つ私は、両手に握りしめているこれまでに縋ってきたものを手放せずにいました。より信仰が強められ、変えられてゆけるようにすべてを益として下さる方に最善を祈り求め、すべてを委ねて日々を歩んでゆきたいと思えます。

この機会を与えて下さり、導いて下さった神様に心から感謝して。



ヨーロッパの日本語教会／集会から

SLIM18に参加して 2

主の恵みを味わう

津田和明

スイス日本語福音キリスト教会



SLIMへの参加の恵みに心から主に感謝致します。今年は、礼拝で毎回告白している使徒信条の内容を今一度しっかり確認し、スモールグループで共に学び、

理解を深め合う時間が与えられました。同時にスモールグループのリードもさせていただきました。

加えて、チームとして賛美を持って音楽家としての自分を捧げるという嬉しいひと時も与えられました。選曲やミーティングの段階から沢山の恵みがあり、今回も素晴らしい曲との出会いが生まれました。

”学び”では、夏の本帰国を前に、居住地の移動と神さまの計画、寄留者としてのあり方を、創世記や出エジプト記そしてヨセフの箇所、またローマ書8:28を通してたくさん学ばされました。さらに福音の再確認、現在に生きるクリスチャンとしてのあり方、将来的に確実に与えられている恵みの再確認、神様の性質、愛の再確認や再発見といった恵みがたくさん与えられました。

そして今回は、聖餐式の内容についてスモールグループ、礼拝を通して、聖餐式の本当の意

味を、主が命がけで与えられた恵みへどう応答するのかという心構えの気付きも与えられました。

今回は、求道のお手伝いをさせていただいている親友の求道者(洗礼はもう少し先ですが、、、)が共に参加して下さって、聖餐式では今回はまだ聖餐に与



からない彼女たちのために皆で祈り、共同体として主の恵みを味わう感動の喜びが与えられたことも大変感謝でした。

その後、学び気づかされたことを理解し消化するため、これまで10時間以上参加者と学びを継続し思ったことをシェアしていますが、大変恵まれています。JEGとしても有志でスモールグループでの学びを出来たらと考えております。今回のSLIMではたくさんのビジョンが示されました。ユースの参加を祈りと参加費援助で支えて下さったスイスJEGの兄弟姉妹にも感謝いたします。

ついて学びました。教会はどうあるべきか、お互いをどう支えて共に生きていくべきか、色々と大切な真理が心に残されました。色々な人に出会えたこと、そして霊的に整えられたこと、神さまに感謝しています。



全てを支配される神様

トムセン・チャールス

スイス日本語福音キリスト教会

ヨゼフの話を見ながら神様の計画について学びました。どんなことがあっても神様は全てを支配していること、そして神様に頼ることの大切さを新たに思い起こされました。

またスモールグループの中で使徒信条を部分的に勉強し、特に公同の教会に



初めてのSLIM

トムセン・ヨハナ

スイス日本語福音キリスト教会



色々な新しい出会いがあって嬉しかったです。私にとってのハイライトは二つあります。それは、聖書の学びと賛美でした。教会は神様のからだでクリスチャンとしての人間

関係がどれだけ大切かを学びました。そして、クリスチャンとともにいただく聖餐式がどれほど貴重なことかが理解できました。この数日間本当に恵まれました。感謝です。また、参加したいと思います。



SLIM18に参加して 3

ヨーロッパの日本語教会／集会から

ゴールまで導く神様

今村葉子

スイス日本語福音キリスト教会



SLIMカンファレンスでは、大会会長の内村伸之牧師により、ビジョンキャスティングが行われます。なぜ私たち（キリスト者）は神と教会に仕えるのか？それは私たちの救い主であり、神でもあるキリストが徹底して父なる神に仕えられたからであり（ピリピ2：5～9）、教会に仕える理由はキリストが十字架に架かる前、過越の祭りを祝うその席

で、愛する弟子たちにのちに現れる教会を神が愛しておられ、その頭がイエスキリストであり、それに連なる信者が教会の身体であるように、それぞれがなくてはならない存在としてこの世から召し出され、教会に仕えるものとなるように話されたからです。

さらにキリストはどのように教会に仕えるのかを具体的にその身をもって示されました。「誰でも人の上に立ちたいと思う者は皆のしもべとなりなさい。」（マルコ10：44）。これは、この世とは違う視点（天の視点、神の視点）を持ちなさい。という意味でもあります。この「天の視点で物事を見極めていくこと」はこのカンファレンスのキーワードでした。

クリスチャンはこの世に生きつつ、常にこの視点に立つことを求められているのだと思います。メインスピーカーとして招かれた松本章広先生（シンガポール日本語教会牧師）は4講演に渡り「神のご

計画に従って召された私たち」のテーマで神の計画に従って召された聖書の人物（ヨセフ、ヨセフと兄達、ヤコブ、イスラエルの民たち）を取り上げメッセージされました。

聖書に出てくる登場人物は誰もが神の計画の中に生かされていて、神の召しに従って生きる人と自分の召し（自我、思い）に従って生きる人が描かれています。現代に生きる私たちもその2つのタイプに分かれると思いました。どの人の人生にも順境の時と逆境の時があり、クリスチャンでもそれは同じです。

しかし、神様の召し（計画）に信頼し従う人は、神様の約束を待つことができ、また試練を通して神様の召しにふさわしく神様の示す天的視点を持つようになるので、その人生は限界のある人

間の考えが及ばないような展開に導かれて行きます。それは、「私が神様を信じた」という小さな出来事が、実は遥か昔から続いていた神様の計画の流れの中にあり、私と神様の個人的なつながりが、昔の信者たちとそして今を生活しているクリスチャンたちとに繋がることとなり、この大きな流れは一つのゴール（と言ってもゴールは永遠への始まりなのですが）へと向かうのです。

では、ゴールとは何か？これがこのカンファレンスのメインテーマと思いました。個人的に救われた私（信者）がこの世で目指すゴールとは、神と教会に仕えることで、「そ

んな器じゃないです。」とはもう言えないと思いました。なぜなら私はそのために救われたのだから。そして私たちが召された器に整えるのは人ではなく神がなさることだからです。

最終日の主日礼拝では聖餐式が行われました。聖餐式は悔い改めた者のためにある、神様への感謝と愛の表明です。同じ神を信じる者が一致して悔い改めの涙を持って共にパンを食べ、ぶどう酒を飲むことの他にこの世に美しいものはないと思えました。教会は悔い改めの実を結ぶ場所であるべきだと思いました。

SLIMカンファレンスは神と教会に仕える人が集められ、またそれぞれが集う地域の教会に帰っていくところでもあります。主にある一致を学んだ一人一人がその麗しさを持ち帰り、恵みをそれぞれの地域教会で表すこと、各地の教会が豊かになることを心から願う場所でもあります。これからも主に召された人たちが整えられ送り出されるカンファレンスとして神様からの祝福が注がれ続けますことを心からお祈りしています。



SLIM19 in Israel

SLIM19は、2019年1月31日から2月8日までイスラエルで開催されます。

イエス様の愛跡を辿りつつ

聖書の書かれた背景やヘブル文化を学び、地域教会にサーバントリーダーとして仕えるために企画されました。ハイライトは、「エルサレム会議」で、日本（ハーベスト・タイム・ミニストリーズ）シンガポール、そして欧州SLIMの合同カンファレンスの開催です。詳細はHPでご覧になれます。

www.slimconference.org/slim19

GRC18の恵み

清水 摂

JCFN北米代表主事



参加者の声を紹介します。

100%主に信頼して歩むこと、そのように出来るように祈ります。恐れ=偶像ということに目からうろこ。(ハンガリーからの帰国者)

神様が共に住まわれていること、この世に順応せず、天の国の旅人として堂々と生きることを知ることができた。

(ニュージーランドからの帰国者)



海外で福音に触れ、イエス様に会う人達の中で、帰国後、教会やクリスチャンの交わりに馴染むことが難しく、信仰が試される方々が少なくありません。私たちJCFN

(www.jcfn.org)では、すべての

帰国したクリスチャンが生き生きと信仰生活を歩み、キリストの体を立てあげることが出来るように働いています。5月2日から5日に開催されたGlobal Returnees Conference18 (通称グリコ) もそのために開催されました。

富士山の麓のホテルでの三泊四日の修養会は、多くの恵み、祝福、そして主からのチャレンジを頂いた素晴らしい時となりました。特にこの修養会では、主の働きの拡大、つまり、宣教のために整えられてきた帰国者が大勢いて、彼らが神様からの召しにしっかりと応答し、与えられた賜物を神様の栄光のために用いている現実を垣間見ることが出来、本当に励まされました。



総勢約370名の参加者の中には欧州、北米、アジア、オセアニアなどからの帰国者がおり、帰国者同士はもちろん、日本の教会とも一つとなる特別なときでした。

今回のテーマ「DWELL- 主は私たちと共に住む」を中心に三人の講師からメッセージを聴き、スモールグループでの分かち合い、賛美と祈りのなかで神様

と交わり、分科会では具体的なトピックについて学び、国別フェローシップでは懐かしい方々との再会を楽しみ、ネットワークではこの機会であれば会うことがなかったであろう人々と繋がることができました。この繋がりがきっかけになってこれからの主の働きがどう広がるかが非常に楽しみです。



「マルタのような私にマリアのようにイエス様のみそばでイエス様の御声を聞くようにすること。また、最近怠っていた、海外で救われて帰国後、神様から離れている兄弟姉妹のために祈り、連絡を取ること。」(アメリカからの帰国者)

グリコで海外で救われ帰国した人達が、今、もう一度海外に宣教師として出ていく人のひとり矢部宣教師の証にとても励まされました。これは、その人達が主からの召しを受け取っただけでなく、帰国後、彼らが繋がった教会も、彼らを宣教師として送り出す召しを受け取り、その応答をしたからの実現です。

日本から海外へ出た人達が海外でクリスチャンになり、海外から日本へキリストの証者として戻り、教会につながり、そしてもう一度海外へ宣教師として送り出される—これからヨーロッパでムスリム宣教に携わる矢部宣教師のこれからの働きのために祈りたい。(S姉妹)



実行委員会メンバー

ホームページ (<http://globalreturnees.org/>) からメッセージや分科会の音声を聞くことが出来ます。ぜひ、御覧ください。次回は2021年のゴールデンウィークに開催される予定です。

スイスJEG修養会に参加して

ヨーロッパの日本語教会／集会から

Hochalpからの眺望



「あふれる信仰」というテーマでの修養会に参加させていただき、神のあふれるほどの恵みをいただきました。夫婦でベアのトレッキングシューズを新調して臨んだハイキング。途中で花の写真を撮るぞ！と意気込んでいましたが、久しぶりの山歩きに息が上がって写真のことなどどこかに…。たどり着

いた頂上でいただいたフルーツは格別な味でした。創造の神のあふれるほどの恵みを覚えました。

食事のうちに、メッセージの後の分かち合いを感謝します。交わりを喜ばれる神のあふれるほどの恵みをいただきました。そしてメッセージ。語らせていただく時、聴く時を頂戴しました。神のことは汲めども尽きない恵みの泉のようでした。

このような機会を備えてくださった主なる神に、また準備をしてくださった方々に感謝します。

フランクフルト日本語福音キリスト教会 矢吹博



今回は愛するスイスの皆さまにお会いできて感謝でした。主にある交わりの楽しさと主の臨在をおぼえて、主とともに歩む祝福をいただきました。イエスさまを、「私の神」と祈ることの幸いを感謝します。「主の祈り」を心に留めたいと思います。

いつでもイエスさまの十字架の恵みを語れるように備えたいと思います。

スイスの山に少しですが登ることができて感謝でした。主にあって愛し合って歩んでおられる教会を、ますます豊かに祝福して下さるようにお祈りします。主にある交わりに加えていただきありがとうございました。楽しい3日間でした。

フランクフルト日本語福音キリスト教会 矢吹育代



何故ここに、今私が？

イスラエルのアラッドは

バルッフエル恭仁子姉から



スイスJEG修養会の記録フォトアルバム、スライドショー、ビデオを祝福溢れるお便りと共にありがとうございました。"何故ここに、今私が"と思います程、主の御手の業の息を呑むほど美しい景色と、輝く皆様の間で安らぎの中に過ごさせていただきました三日間、また滞りなくご準備くださいました山のようなご労の数々、スイスJEGの愛する兄弟姉妹に感謝いたします。みなさまのお疲れが一日も早く癒されますように。主の御手の中の熱いお交わりの数々が言い尽くすことのできない感謝です。祝福と恵みの日々をお祈り申し上げます。ユダの荒れ野より、主にある愛を込めて

生涯最良の誕生日

南ドイツのバーデンバーデンは

松尾照子姉から



アルプスの素晴らしいパノラマの下で、3日間の修養会を愛のこもったスイス教会のメンバーとの交わりの内に過ごさせていただきました有難うございました。そして、なんとスイス教会からのハッピーバースデイの歌声と共に、寄せ書きの手作り押し花カードが添えられたプレゼントまで！予期せぬお祝いに、我が生涯、最良の誕生日となりました。言葉に尽くせぬ感謝をもって。

アルプスの自然のなかで

チェコのボヘミアは

黒田閑恵姉から



スイスJEG修養会へは初めての参加でした。予想より、ずっと充実したよい時間を持たせていただき心より感謝いたします。人数的に50人ほどの参加者はとてもよかったと思います。それにアルプスの絶景なる自然の美しさがあって、先生方のお話もよけい心に響きました。松林兄がいつも送信してくださるアルプス、写真では見知っていましたが本物は格別、迫力がちがいます。風があり香りも鳥の声もあります。ハイキング途中で、赤い民族衣装のややアルコール入りのお兄さん方のヨーデルまで聞くことができました。なんて幸運でしたか！

私は住まいの場所柄、世間から離れて暮らし、教会にも毎週は行けません。インターネットで何でも見聞できる時代とは言え、実際に目の前で話されることを聴くことは大事です。つい、好きなものだけ選んで見聞き、読んでしまうところから離れ、先生方のお話をじっくり聴き、兄弟姉妹と交わりを持たたことは貴重な時間でした。誘ってくださった原憲二兄、しのぶ姉、ありがとうございました。お働きくださった先生方、スイス教会の兄弟姉妹に神様からごほうびがたくさんありますように！感謝して！